

## 『フランス文学』執筆要綱

日本フランス語フランス文学会中国・四国支部

1. 用語は日本語またはフランス語とする。
2. 枚数は注を含めて、原則として、日本語の場合 400 字詰め原稿用紙 35 枚以内、フランス語の場合タイプ用紙（1 行 65～70 字×30 行）17 枚以内とする。
3. 注は論文の終わりにまとめる。原稿では注も本文と同じ大きさの書体で示し、本文中には<sup>1)</sup>  
<sup>2)</sup> 等と右肩に小字で参照を指示する。この指示が、コンマ、ピリオドと同時に用いられる場合は、次の順序とする。  
例：……指摘した。<sup>1)</sup> ……指摘したが、<sup>2)</sup> ……
4. 作家、研究者の姓は 2 番目以下の文字にスモール・キャピタルを用いる。指定は文字を赤で囲む。  
例：Victor HUGO
5. 欧文作品名、雑誌名はイタリック体とする。指定は赤で下線を付す。和文作品名、雑誌名は『 』で囲む。  
例：Les temps modernes, 『フランス文学』
6. 引用文は、上下を一行分、左を二字分あけて、引用文であることをはっきりさせる。和文の中に改行せずに和文を引用する場合は「 」記号を、欧文を引用する場合は« »記号を用いる。  
欧文の引用文は原則としてタイプで打つ。
7. 原稿は完成原稿とし、以上の印刷上の記号もかならずつける。
8. 執筆者による校正は原則として初校のみとする。
9. 執筆者には抜刷または本誌 20 部を贈呈する。

付則 2001 年 12 月 1 日 一部改正。